

強者の戦略

【解答例】

古代におけるアテネ民主政は、女性や奴隷は除外した一部市民のみによる直接民主制であるが、現代の民主政は普通選挙で選出された代表者を介した間接民主制であるという違いがある。また、多数決により物事が決められる民主主義では、多数派の集団による支配が生まれる傾向が強いため、少数派の自治権を認め、少数派からの代表者の選出を保障し、討論で物事を決めるなどの工夫が必要となってくる。(184字)

解説

まず、問題そのものを分割するところから手がけましょう。

- 1.古代アテネと現代の相違点
- 2.現代の多数派・少数派の民族問題がみられる地域での問題点
- 3.現代の多数派・少数派の民族問題がみられる地域での工夫の3点

その上で、

- 1.直接民主制と間接民主制（代議制）の違い
- 2.圧倒的に多数派が有利な運営となりうる危険性が高い
- 3.少数派への優遇措置

を明確に提示するようにすればブレない論述になります。

さて、それぞれに注意すべき点があります。それは、

- 1.アテネでの市民権は？
 - 2.選挙の種類・区分は？
 - 3.どこまでの範囲での優遇が妥当か？
- という点です。

1.古代アテネにおいて、いわゆる市民権を得ていた者は、成年男子に限られるというものでした。またここでいう「男子」には奴隷身分は含まれていません。つまりは、現代における「普通」の定義とはかけ離れたものであったわけです。安易に直接民主制が「よいこと」と考えてしまうのは短絡的すぎますし、この定義を外して論を展開すると、現代の民主政の説明に対し、古代アテネの内容部分が少なく、文字数（バランス）が悪い論述となってしまいます。

なお、直接民主制を説いた思想家にルソーがいることを確認しておくようにしましょう。

2.現代の民主政での選挙は、①秘密選挙・②平等選挙・③普通選挙が基本となります。

①は誰が、誰に票を投じたのかは分からないようにする（無記名・投票者を保護）というもので、②は財産や社会的地位によって違いを認めず、一人一人の票の重みは等しいというもので、③は一定の年齢に達した男女に選挙権を認める、というものです。

ここでは、字数の関係から、「普通選挙」に絞り込んでの表記としていますが、字数に余裕が生じた場合は、①や②の内容に触れてもよいでしょう。

また、直接民主制に対して、間接民主制（代議制・議会制民主主義）が主流であることは外せません。現代では、人口の問題や、議会運営そのものの迅速性が求められていることが考えられるので、この表記は忘れることのないようにしなければなりません。

なお、間接民主制を説いた思想家としてロックをおさえておくようにしましょう。

3.は日本ではなかなか考えにくいことではありますが、世界では多くの地域で抱える問題であり、多くの民族が生活する国会において、一律に

強者の戦略

選挙を実施したのでは、当然、多数派の支持が圧倒することは明白です。そこで採られる施策として、自治権そのものを認めることが挙げられます。そうした上で、一定の枠での、少数派の当選者の確保につながる道をつけ、多数派との対等な関係を認めた上で、「対話」の場を作り出すという工夫を記述すればよいと思います。

なお、「対話」「コミュニケーション」を説いた思想家として、倫理分野ではフランクフルト学派第二世代に属するハーバーマスが挙げられます。おさえておくようにしましょう。

以上のことを踏まえますと、解答例のような形になることでしょう。

では、与えられました選挙権を大切に。

【前置き文】

日本でも 18 歳選挙権が認められることとなりました。このことを受けての「選挙」に関する出題でした。選挙の投票の年齢制限が下げられると、懸念される問題点もあります。

たとえば、明確な政治方針を持ち、支持する政党の見極めができるのかどうか、といった点や、参政権そのものを「成人」とみなす定義にしまうと、飲酒・喫煙の年齢はどう扱われるのか、といった点、また、低年齢に合わせた政策を表明し、その票を獲得するために迎合するような候補者が現れる可能性がある点などが挙げられます。

しかしながら、18 歳と 20 歳とでそれほどまでに差はあるのか、また、成人の定義そのものを参政権と合わせる必要があるのか、と考えれば、こうした懸念も払拭することができます。要は、わたくしども自身が襟を正し、そして皆さん自身がしっかりと世相を見極める眼力を持てば、自ずと解決するというものです。そのためには、わたくし自身、良き指導を心がけるように努め、皆さん自身はこの場にてしっかりと学んでいただけ

ばと思います。

さて前置きはこの辺で。では本題に入ります。